

守る会岡山 44 号
2020. 10. 1 発行

森永ひ素ミルク中毒の被害者を
守る会岡山

岡山県本部事務局
〒700-0984 岡山市北区桑田町 18-28
明治安田生命岡山桑田町ビル 4 階
086-232-3855

コロナに負けるな！厄病退散！

アマビエの予言

「病流行の時、私の写した人々に見せよ！」

水木しげる 画



～40 歳以降のあり方（改正案）について～

守る会会員のみなさまへ 森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会 岡山県本部

今年例年に増して暑い夏でしたが、元気にお過ごしでしょうか？

さて、第二次10か年計画終了から、私たちが75歳になる頃までの被害者救済事業をどうするか？という「40歳以降の被害者救済事業のあり方」の改正案が3月に協会理事会で承認されました。その内容をお知らせしたいと思います。（会報「ふれあい5月号」にも掲載されております。）

○相談事業

- (1) ひかり手当・健康管理費特1級の受給者については、短期的な目標を持って、心豊かに暮らしていただくため、名称も「将来設計実現の援助事業」から「生活設計実現の援助事業」に変更し、将来障害や症状が悪化したときには、本人の希望する医療や療養生活ができるよう、事前の意思決定ができるよう支援態勢の確保の取り組みを重視します。
- (2) ひかり手当・健康管理費特1級の受給者以外の被害者については、「森永ひ素ミルク中毒被害者対策対象者名簿」登載の取り組みを重視し、基本的には市区町村及び地域包括支援センターなどの地域の社会資源を活用し相談対応を行っていただきますが、自力で対応できない被害者については、行政及び社会資源に結びつけるなどの個別相談を行います。

○保険・医療事業

- (1) 生活習慣病の重症化・認知症・加齢による心身の衰えが発症しても、病気があっても心豊かに生きることを重要な課題として、被害者同士健康を守り合う取り組みを継続し、地域で行われる健康づくり活動を推奨するなど、被害者の主体的な健康づくりを支援する。また、かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬剤師を持つことの重要性を伝え続けます。
- (2) 定年退職に伴い、多くの被害者が国民健康保険に移行し、健康診断の受診率低下が懸念されるけれども、低下させない取り組みを重視します。また、重度障害のある被害者に対する受診等のあり方については、第3次10か年計画の早い時期に検討します。

○生活の保障・援助事業

- (1) 一方的な支援や介護の提供ではなく、人権が守られた安心・安全な暮らしであるかを視点に置き、専門家や支援関係者とともに課題を明確にします。
- (2) 「私の将来設計」を「生活設計」に変更し、健康はもちろん楽しみある豊かな日常生活をめ

ざす取り組みに改定し、短期計画は毎年振り返ることを重視します。

- (3) 障害基礎年金は物価が上がっても上がらないという弊害が起こっていたため、消費者物価指数に連動したスライド方式に変更します。また、調整手当のスライド率も同じ扱いとします。
- (4) 調整手当の等級は、今後既存障害の重度化と加齢による重度化の区別が困難となるため、65歳以降は老齢年金及び調整手当の受給により、生活基盤が一定程度確保できることから、等級変更は行わないことにします。しかし、介護に関する費用については、補足介護費及び補装具等助成金の支給基準を見直し、必要な援助を行います。
- (5) ひかり手当・健康管理費特1級の受給者について今後は、在宅生活が困難となり、介護保険施設の利用が増えることを考慮して、帰宅の際、親族が行う介護に対して援助してきた一時補足介護費を廃止し、施設入所者の帰宅時や日中活動での外出時の交通費などを「生活充実助成金」として支給基準を拡大して援助します。

○生活充実支援事業

- (1) 自立生活への移行を奨励する援助から心豊かな日中活動を実現し、生活を充実させる支援へと重点を移します。そのため「自立奨励金」を廃止し、「生活充実助成金」を支給します。
- (2) 公的制度の施設及び事業所に通う場合は「施設利用助成金」を支給します。

みなさんの感想や意見をお聞かせください。FAX 086-232-3027 岡山県本部事務局まで

美作支部 支部活動について

美作支部 岡 孝治

令和2年7月19日(日)10時から津山圏域雇用労働センターで美作支部支部会を開催しました。会員29名中11名が参加しました。協力員会議・健康懇談会・料理教室は開催していますが、支部活動



としては、最近実施しておらず久方ぶりに実施しました。

テーマは「ひかり協会に対する意見要望」でした。参加者から次の様な意見が出ました。

- ① コロナウイルスが感染拡大しており、協会として早急にテレビ会議（リモート会議）ができるようにオンライン化を検討してください。オンライン化に際して、守る会も共有できるようにしてほしい。守る会の会議も協会でもできるようにお願いします。
- ② 65歳から年金の内容が変更になります。被害者から相談があればわかりやすく説明をしてほしい。
- ③ 健康に過ごす為にも、医療費支給の継続をお願いします。
- ④ 障害のある被害者の施設入所が増えています。入所に対するきめの細かい救済を要望します。
- ⑤ 「40歳以降の被害者救済事業のあり方」の改正案を行う上で、協会からわかりやすい説明をしてほしい。
- ⑥ これから被害者は高齢化して健康問題が増えていきます。その都度適切なアドバイスが必要になります。適切なアドバイスができるように、職員の方は、しっかり勉強して頂きたい。

そして職員の方の健康にも十分配慮して頂きたい。

以上が協会に対する意見要望です。

支部活動については、継続して開催してほしいとの要望がでましたので、今後は、時間を空けずに継続して活動したいと思います。

「三蜜」～新しい暮らし方～

備中支部 中倉 隆巨

新型コロナウイルス感染予防のため「自粛・三密・感染者数」と毎日、毎日マスコミで報道されています。外出・行動の自粛で息苦しさや不安を感じていますが生き方や働き方の新しい暮らし方への見直しかな…とも思います。

「三密」について、ある雑誌で「宗教の三蜜」というキーワードで掲載されていたので紹介します。

◆身蜜（からだ・行動）＝自分の行動を見直し「今」大事なものを見極める。

◆口蜜（ことば・発言）＝自分の言動を見直し正す。人の悪口を言わない。

◆意蜜（こころ・考え）＝自分の心を見つめ、他者に気を配り行動に移す。

避けるべき距離の「三つの密」と守るべき自分の心の「三つの蜜」を心掛けて、人と人とは近くにいなくても大切な人と心と心は繋がっています。守る会の仲間たちとも会える機会が減っていますが、「声掛け・呼びかけ」を今後も続けていきたいと考えています。

私も不安やストレスから、「コロナ離婚」にならないよう「妻の地雷」に気を付けて、感謝・思いやり・会話をと…日々暮らしています。

コロナの生活に耐えて

備前支部 阿部 修一

まだ仕事はしていますが、65歳になって最近、思う事は「仕事を辞めたら人に会うことも少なくなりどうなるんだろう？」と少し心配です。

今、コロナで人に会うのも自粛しないといけないので、私の趣味も自粛です。



まだ私の周りにはコロナにかかった人はいませんが、誰が保菌者かわからないのが怖いです。

私は肺気腫とか喘息で、咳が良く出るので周りの人にも気を使います。それにひょっとして自分がかかっているのじゃないかという不安もあります。

コロナの終息が来ない限り何もできないかなあ？

でも、このままだと何も出来ないので、1人で出来る事が何かないかと考えました。思いついたのは、昔していたラジコンの飛行機を作って飛ばす事です。

なぜこれにしたかという作る事、飛ばす事によって脳の活性化につながり家に引きこもらなくて良いかなと思ったからです。

ナデシコ料理教室からの報告

備中支部 渡邊みさを



今年から再スタートを予定していた自主的グループ活動のナデシコ料理教室だったのに、コロナウイルス感染拡大のせいで中止になりました！

当たり前に出ていた事が出来ない今の生活ですが半年続くと慣れてきて「家から出ない生活で何か出来ないか？」と考えて「今出来る事」日頃できない所を片付けたり、電話で友達と長話をする事でなんとか生きる楽しみにしています。

コロナウイルスが終結したらお料理教室を再開させて、楽しい時間を過ごしたいと思います。

編集部より

今年も8月24日がやって来ました。

65年前の昭和30年8月24日に西日本で発生している乳児の奇病が森永ドライミルクに混入したひ素による中毒事件と初めて報道された日です。

岡山大学医学部の浜本英次教授により発表されました。この日から被害者と親たちの長い戦いが始まりました。当時は国が進める高度成長政策で企業を優先し消費者の人命は軽視されていました。

事件後、森永乳業は企業責任を認めず単なる食中毒として賠償金で終わらせようとした。

その後「14年目の訪問」まで被害者はちゃんとした治療も受けられず、差別や中傷を恐れ障害を隠し続けた被害者もたくさんいました。

現在、新型コロナウイルスが広がる中「感染した人」に対し誹謗や中傷をたくさん見聞きします。

感染しようとして感染した人はいません。私たちもひ素の入ったミルクを飲みたくて飲んだ被害者はいません。私たち被害者は自身の健康を守りながらコロナの終息に向け社会協力と安全対策を続けていきましょう。

訃報

謹んでご冥福をお祈りします。

備中支部 折元秀樹さん 2月12日

備前支部 蜂谷大祐さん 6月23日

備前支部 延原嘉治さん 9月4日



昭和30年8月24日の新聞

機関紙「守る会岡山」に記事投稿、エッセイ、活動報告、制作作品など
どしどしお寄せください。お待ちしております。

「守る会岡山」ホームページ <http://www.mamorukaiokayama.sakura.ne.jp>